動物霊園 グリーンメモリアル

管理事務室の日誌：令和７年１月(2025)第190 号

今年は巳年にあたります。以下は干支の巳(蛇)にまつわる昔話です。
むかしむかし、村人たちが集まって、お寺の掃除をしていました。
掃除が終わると、お坊さんがお酒を入れたツボを持ってきました。
みんなはお礼を言って、お酒を受け取りました。
　ところが村人は五人いるのに、お酒はツボに一人分しか入っていません。
みんなで飲むには、とてもたりません。すると、一人の男が言いました。
「では、こうしたらどうだろう。みんなで地面に、ヘビの絵をかく競争をするのさ。
　一番速くかきあげた者が、一人でお酒をいただくんだ」「それは面白い。よし、それで決めよう」
「ではいくぞ。よーい、ドン！」みんなはいっせいに、ヘビの絵をかきはじめました。
　すると一人の男が、一番はやくかきあげました。
「出来たぞ！　おれが一番だ！　あっははは。みんなには悪いが、この酒はおれがちょうだいするよ」
　男はそう言って酒ツボに手をのばそうとしましたが、ふと気がついて、
「しまった！　これはしくじったぞ。ヘビに足をつける事を忘れていた」
と、あわててヘビの足をかきはじめたのです。するとそれより先に、ほかの男がヘビをかきあげました。
「出来た。酒は、おれの物だ」男はそう言うと、お酒をおいしそうに飲みました。
　はじめの男が残念そうに見ていると、酒を飲んだ男が笑って言いました。
　「バカだな、お前は。よく考えてみろ、ヘビに足があってたまるもんか。
　　そんなよけいな物をくっつけようとするから、こんなうまい酒を飲みそこねるんだよ」
　余分な物をつける事を『蛇足(だそく)』と言うようになったのはここから始まりました。

１年の始まりとなる１月。その代表的な和風月名は、「睦月(むつき)」ですが、
それ以外にも多くの異称があるのです。

なぜ「睦月」と呼ぶのか？
「睦(むつ)ぶ」とは、仲よくすること。新年を祝って、
家族や親族が集まり、睦び親しむ月だからというのです。
睦月は、「睦び月(むつびづき)」が略されたものというのが、一般的な説です。
ほかにも異説があるのですが、説得力のある説が少なく、もっぱらこの説が通っています。
年の初めを、みんな仲よく過ごしたいという気持ちは、誰もが持っていることだからでしょう。
語源とされる「睦び月」も、そのまま１月の異称として使われました。

【お知らせ】冬期閉園時間について
早めの日没の為、12 月・1 月は
午後４時を閉園時間とさせていただきます。